

仙台市自動車運送事業経営改善計画

【平成27年3月改訂版】

(平成23年度～平成28年度)

実施結果・評価

平成29年5月

仙台市交通局

目次

下線は重点取組項目

1	地下鉄東西線開業を見据えた着実な準備	
①	<u>バス路線の再編</u> （経営企画課・輸送課）	1
②	<u>ICカード乗車券 icasca（イクスカ）の導入</u> （経営企画課）	1
③	新たな運賃制度の検討（経営企画課）	2
④	モビリティ・マネジメントの推進（経営企画課）	2
⑤	運行効率上の観点からの民間バス事業者との調整（輸送課）	3
2	質の高いサービス提供によるお客様満足度の向上	
(1)	安全・快適なサービスの提供	
①	安全運行に対する職員の意識と技術の向上（業務課）	3
②	常時記録型ドライブレコーダーの導入（業務課）	4
③	接客教育の充実による接客サービスの向上（業務課）	4
④	低公害バス及びノンステップバスの導入（整備課）	5
⑤	バス待ち環境の向上（輸送課）	5
⑥	「バスちかサポーター」制度の推進（経営企画課）	6
(2)	便利で利用しやすいサービスの提供	
①	<u>ICカード乗車券 icasca（イクスカ）の導入</u> （再掲）（経営企画課）	1
②	icasca を活用した新たなサービスの検討（新規）（経営企画課）	6
③	お客様のニーズに対応したダイヤ等の設定（輸送課）	7
④	<u>公営バス事業の担うべき役割等に関する行政との検討</u> （新規）（経営企画課・輸送課）	7
⑤	ホームページなどを活用した情報配信の充実（経営企画課）	8
⑥	「どこバス仙台」のサービスのあり方の検討（輸送課）	8
3	経営基盤の強化に向けた積極的な施策展開	
(1)	増客・増収に向けた取り組み	
①	新たな運賃制度の検討（再掲）（経営企画課）	2
②	お客様のニーズに対応したダイヤ等の設定（再掲）（輸送課）	7
③	広告料収入の確保（経営企画課）	9
④	市営バスのイメージアップ（経営企画課）	9
⑤	モビリティ・マネジメントの推進（再掲）（経営企画課）	2
⑥	バス事業資産の有効活用（業務課）	10
(2)	経費削減に向けた取り組み	
①	<u>利用状況に応じた適切なサービス供給量への見直しの検討</u> （新規）（輸送課）	10
②	<u>管理の委託の今後の実施方針の検討</u> （新規）（輸送課）	11
③	管理の委託契約の見直し（輸送課）	11
④	バス車両修繕業務等の見直し（整備課）	12
⑤	バス車両にかかる投資額抑制に向けた検討（整備課）	12
⑥	乗務員の労働条件の見直し（総務課）	13
⑦	貸切バス事業のあり方についての検討（新規）（輸送課）	13
⑧	庁舎における電気・ガス・水道使用量の節減（財務課・業務課）	14
⑨	運行効率上の観点からの民間バス事業者との調整（再掲）（輸送課）	3
(3)	組織の活性化に向けた取り組み	
①	<u>次世代の職員の育成と技術の確実な継承</u> （新規）（総務課・業務課）	15
②	業務への意欲を高める取り組み（総務課・業務課）	15
③	良好なコミュニケーションの確保（業務課）	16
4	市営バスとしての災害対応力の強化	
①	災害に強い通信手段の確保（業務課）	16
②	災害訓練の実施（業務課）	17

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	1-①
事業名	バス路線の再編(経営企画課企画係、輸送課運行計画係)
大区分	地下鉄東西線開業を見据えた着実な準備
中区分	—
事業目的、必要性	本市では「せんだい都市交通プラン」(平成22年11月)に掲げているとおり、地下鉄東西線開業に合わせて、定時性・速達性に優れ、都市交通の基軸となる鉄道の利用圏域を拡げるため、バス路線の再編を行い、鉄道にバスが結節する交通体系を構築することとしている。交通局では、この方針に賛同する立場と利便性向上の観点からバス路線のフィーダー化(駅への結節)を基本に路線再編を行う。
事業内容	「せんだい都市交通プラン」に掲げるバス網パターンを基本に、路線再編案の策定を行う。また、市内東部のバス路線については、「仙台市震災復興計画」におけるまちづくりとも連携しながら再編に取り組む。 平成25年度内には、都市整備局を中心として「路線再編計画」を策定し、ダイヤ編成に着手するなど東西線の開業に備える。
目標	バス路線の再編により、本市が目指す鉄道を中心とした交通体系を構築し、通勤・通学利用者などの利便性向上を図る。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> 平成23～26年度 路線再編案の作成及び市民説明会の実施 平成23～26年度 路線再編案の確定 平成27年度 ダイヤ編成作業及び路線、運賃に関する国への認可申請等 平成27年12月6日 路線再編の実施
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

事業番号	1-②
事業名	ICカード乗車券icsca(イクスカ)の導入(経営企画課icsca事業係)
大区分	地下鉄東西線開業を見据えた着実な準備
中区分	—
事業目的、必要性	ワンタッチでの乗降をはじめ、利便性の高いサービス展開が可能な「IC乗車券」を導入して、お客様の利便性を向上させ、公共交通の利用促進を図る。
事業内容	平成27年度の開業に合わせて地下鉄東西線に導入する予定のIC乗車券について、市営バスにおいても、同時期の導入を目指し、着実な準備を進める。平成26年度に先行して導入する予定の地下鉄南北線も含め、バスと地下鉄が一体的にIC乗車券を導入することにより、スムーズな乗り継ぎと運賃支払を可能とする。また、平成27年度においては、ふれあい乗車証のICカード化への対応及び仙台SuicaエリアにおけるSuicaとの相互利用の実施、平成28年度においては、敬老乗車証のICカード化への対応を図る。
目標	平成24年度にIC乗車券のシステム発注を行い、平成26年度の南北線への導入、平成27年度の東西線・市営バスへの導入、ふれあい乗車証のICカード化への対応、仙台SuicaエリアにおけるSuicaとの相互利用の実施、平成28年度の敬老乗車証のICカード化に向け、システムの構築を進めるとともに、システムの導入後については適切な維持管理を図る。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年12月6日 地下鉄南北線へのIC乗車券(icsca)導入 平成27年12月6日 地下鉄東西線・市営バスへのIC乗車券(icsca)導入 平成28年2月1日 ふれあい乗車証のIC化 平成28年3月26日 仙台SuicaエリアにおけるSuicaとの相互利用の実施 平成28年10月1日 敬老乗車証のIC化
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	1-③
事業名	新たな運賃制度の検討(経営企画課企画係)
大区分	地下鉄東西線開業を見据えた着実な準備
中区分	—
事業目的、必要性	バス路線の再編により運賃負担が増加する利用者の負担軽減を図るため、乗継割引制度の拡充など利用しやすい運賃のあり方について検討を行う。
事業内容	乗継割引制度の拡充など、利用しやすい運賃のあり方について関係部局や民間バス事業者とともに検討を行う。検討に際しては、利用者の利用実態を調査、分析のうえ、バスと地下鉄の利用促進につながる利便性の高い制度の構築を目指す。
目標	利用しやすく利便性の高い運賃制度を構築することにより利用促進を図る。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年12月6日 東西線開業に合わせて「東西線結節駅周辺バス均一運賃制度」導入 平成27年12月6日 るーぷる仙台・地下鉄共通一日乗車券の販売開始 均一運賃対象区域内の利用状況の分析(開業前及び開業後)
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

事業番号	1-④
事業名	モビリティ・マネジメントの推進(経営企画課企画係)
大区分	地下鉄東西線開業を見据えた着実な準備
中区分	—
事業目的、必要性	行政(仙台市)と連携しながら、クルマから公共交通へ利用転換を促すためのモビリティ・マネジメントの施策を積極的に展開し、地下鉄東西線開業及びバス路線再編後においても、引き続き市営バスを利用していただくための環境づくりに努める。
事業内容	本市が実施する「せんだいスマート」との連携・協力や、「学都仙台 市バス(+地下鉄)フリーパス」の一括販売(主な大学の新生入学生を対象に交通局が行う取り組み)などのモビリティ・マネジメントの取り組みを行う。
目標	モビリティ・マネジメントの取り組みを通じて、クルマから公共交通への利用転換を促し、地下鉄東西線開業及びバス路線再編後においても、引き続き市営バスを利用していただくための環境づくりを行う。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> せんだいスマートとの連携、協力(市への転入者向け「バスマップ」や主な大学における新入生向け「大学交通情報マップ」の作成協力等) 学都仙台フリーパスの一括販売(平成24~28年度累計販売枚数 4,048枚) 地下鉄東西線開業にともなうフリーパス新券種に関する周知 地域のイベント等における市営バス及び地下鉄利用促進活動
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	1-⑤
事業名	運行効率上の観点からの民間バス事業者との調整(輸送課運行計画係)
大区分	地下鉄東西線開業を見据えた着実な準備
中区分	—
事業目的、必要性	乗合バス事業の規制緩和により需給調整規制が撤廃され、路線への参入及び撤退が自由となっていることから、民間事業者と競合する路線等が生じる場合が考えられる。この場合において両者が調整することによって運行の非効率を排除し、経営の効率化を図る。
事業内容	民間バス事業者との競合路線等において需要と供給のバランスやネットワークなどの視点から非効率な運行状況となっていないか分析し、必要な調整を行い、運行の効率性を確保する。
目標	効率性及びサービス水準が低下しないように必要に応じて適切な調整を図る。
計画期間中の事業実績(実績値)	対象事案の発生無し
評価	取り組み対象の事案がなかった
備考	

事業番号	2-(1)-①
事業名	安全運行に対する職員の意識と技術の向上(業務課指導係)
大区分	質の高いサービス提供によるお客様満足度の向上
中区分	安全・快適なサービスの提供
事業目的、必要性	交通事業者にとって、お客様を目的地まで安全かつ確実に輸送することは最大の使命であり責務である。そのためには、職員の教育の充実を図り「停車中の事故の根絶」「走行中の事故の抑止」に取り組む必要がある。
事業内容	ヒヤリハット体験事例の検証や危険予知トレーニングなどを内容とする様々な研修を実施することにより、乗務員の安全に対する意識の浸透や技術の向上を図るなど、事故防止に積極的に取り組み、輸送の安全を図る。
目標	平成26年1月～12月における有責事故件数を基に、10万kmあたりの発生件数0.56件を基準値とし、27年度の目標は基準値の20%減(0.45件)、平成28年度は更に5%減(0.42件)とする。
計画期間中の事業実績(実績値)	【有責事故件数】 27年度:82件 28年度:91件 【10万kmあたりの発生件数】 27年度:0.45件 28年度:0.52件
評価	計画に遅れが生じている(あまり成果が上がっていない)
備考	ドライブレコーダーの映像を用いた事故防止のための研修等を実施したものの、目標は達成できなかった。

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	2-(1)-②
事業名	常時記録型ドライブレコーダーの導入(業務課指導係)
大区分	質の高いサービス提供によるお客様満足度の向上
中区分	安全・快適なサービスの提供
事業目的、必要性	常時記録型ドライブレコーダーを導入することにより、乗務員の安全意識の向上とエコドライブを推進し、事故防止と経費削減を図る。
事業内容	常時記録型ドライブレコーダーを一部のバス車両へ試験的に導入し、効果分析や機種を選定、導入台数及び導入手法などの検討を行ったうえ、本格導入に移行する。また、ヒヤリハット情報の共有や事故の原因分析にも役立つことから、各種研修等にも活用する。
目標	平成27年度内に市営バス全車両へのドライブレコーダーの導入を完了させる。また、ドライブレコーダーの映像を分析し、事故の未然防止等に活用するとともに、ドライブレコーダーの映像を活用した研修用DVDを作成した上で、各種研修会において接遇の向上や運転技能の向上を図る。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24～27年度にかけて全車両(496両)に導入完了 ・各種研修や教習にドライブレコーダーの映像を活用 ・ヒヤリハット事例集等を盛り込んだ研修用DVDの作成
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

事業番号	2-(1)-③
事業名	接遇教育の充実による接客サービスの向上(業務課指導係)
大区分	質の高いサービス提供によるお客様満足度の向上
中区分	安全・快適なサービスの提供
事業目的、必要性	お客様を快適に安心して輸送するためには、乗務員の接客サービス向上を図る必要がある。乗務員の接遇研修の内容を充実させることにより市バスモニターの評価点数の向上と苦情件数の減少を目指す。
事業内容	より快適にバスにご乗車いただくため、従来のマニュアルやDVDを活用した研修に加え、お客様視点での接客サービスのあり方を認識させることを目的に、営業車両への添乗研修を実施するなど、乗務員への接遇教育を充実させることにより、接客サービスの一層の向上を図る。
目標	市バスモニター制度の評価については平均29.6点(26年1月から12月までの実績)を基準に、年間5%向上(27年度:31.1点以上、28年度:32.6点以上)を目指す。また年間苦情件数については19件(26年1月から12月までの実績)を基準に、年間5%減(27年度:18件以内、28年度17件以内)を目指す。
計画期間中の事業実績(実績値)	<p>【モニター平均点】</p> <p>27年度:30.9点 28年度:30.9点</p> <p>【苦情件数】</p> <p>27年度:23件 28年度:69件</p>
評価	計画に遅れが生じている(あまり成果が上がっていない)
備考	モニター平均点、苦情件数ともに目標を達成することはできなかったものの、モニター平均点については計画期間を通じて一定の向上が見られた。

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	2-(1)-④
事業名	低公害バス及びノンステップバスの導入(整備課管理係)
大区分	質の高いサービス提供によるお客様満足度の向上
中区分	安全・快適なサービスの提供
事業目的、必要性	自動車排出ガスによる環境負荷の低減を図るとともに、高齢の方や障害を持つ方の乗り降りの負担軽減を目的に、アイドリングストップ装置付きノンステップバスの導入を進める。
事業内容	新しく購入するバス車両に、国の最新の自動車排出ガス規制に適合したアイドリングストップ装置付きノンステップバスを導入することにより、環境負荷を低減するとともに、利便性及び安全性を向上させ、より市営バスを利用しやすくする。 また、投資額抑制のために導入する中古バス車両について、アイドリングストップ装置付きノンステップバスを基本として導入を進める。
目標	・低公害バス比率について、平成28年度末までに87.3%を目指す。 ※低公害バス＝アイドリングストップ装置付きディーゼルバス、ハイブリッドバス、CNGバス ・低床バス比率について、平成28年度末までに67.9%を目指す。 ※低床バス＝ノンステップバス、ワンステップバス
計画期間中の事業実績(実績値)	低公害バス及び低床バスを176両導入(平成23～28年度合計) ・低公害バス比率85.0%(累計422両) ・低床バス比率66.1%(累計328両)
評価	ほぼ計画通り進んでいる(ほぼ成果が上がっている)
備考	

事業番号	2-(1)-⑤
事業名	バス待ち環境の向上(輸送課管理係)
大区分	質の高いサービス提供によるお客様満足度の向上
中区分	安全・快適なサービスの提供
事業目的、必要性	「ひとにやさしい」、「まちにやさしい」交通事業を目指す一環として、バス停留所に上屋等を設置し、快適かつ安心してバスを待つ事ができる環境の整備を行う。
事業内容	上屋の更新や維持管理にかかる経費を削減するため、広告付上屋の設置を進める。 また、県補助事業や公営交通事業協会の「モデル・バス停留所施設設置事業」を活用して、上屋の更新整備を行うとともに電照式バス停標識等の設置を行う。 なお、広告付上屋は、民間事業者の広告収入により設置するため、経済情勢により設置数が変動する。
目標	平成27年度以降毎年度、上屋12箇所以上、電照式バス停留所5箇所以上を整備する。
計画期間中の事業実績(実績値)	平成28年度末現在 ・上屋設置69箇所(広告付き上屋47箇所含む) (平成27年度9箇所、平成28年度13箇所設置) ・電照式バス停留所標識設置30箇所 (平成27年度8箇所、平成28年度5箇所設置)
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	2-(1)-⑥
事業名	「バスちかサポーター」制度の推進(経営企画課営業推進係)
大区分	質の高いサービス提供によるお客様満足度の向上
中区分	安全・快適なサービスの提供
事業目的、必要性	ご自身が通勤・通学・買い物などでバス・地下鉄を利用する際に障害のある方や高齢の方などで困っている方を見かけたら、行き先の案内、手荷物の運搬、乗降の補助などを率先して手助けいただくことにより、バス・地下鉄を利用しやすい環境を構築する。
事業内容	「バスちかサポーター」の新規募集を継続していくとともに、制度の広報活動、サポーター研修等を積極的に行う。また、新たな活動形態についても検討を行いながらサポーター活動の活性化を図る。
目標	バリアフリーの推進にあたり、より多くの方々に市バス・地下鉄の特性を理解してもらうため、毎年度3回以上の研修会を実施する。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・「バスちかサポーター」約300人の登録 ・「交通バリアフリー講座」の開催(平成27年度:1回、平成28年度:2回)
評価	計画に遅れが生じている(あまり成果が上がっていない)
備考	バスちかサポーター制度は平成27年度末で廃止し、より多くの方々が参加しやすいよう交通バリアフリー講座を開催したところであり、目標の開催数には届かなかったものの、一定程度バリアフリーに関する啓発を実施した。

事業番号	2-(2)-②
事業名	icscaを活用した新たなサービスの検討(経営企画課企画係、icsca事業係)
大区分	質の高いサービス提供によるお客様満足度の向上
中区分	便利で利用しやすいサービスの提供
事業目的、必要性	icscaのICカード乗車券特有の特性や機能を活かし、さらなる利用促進を図る。
事業内容	民間事業者との連携や身分証との一体化など、様々なサービスについて検討していく。
目標	icscaを活用した新たなサービスについて検討する。必要に応じて民間事業者や学校法人等と連携して取り組む。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・DATEBIKE(ダテバイク)開錠認証カードとして利用開始 ・地下鉄駅においてパーク&ライド及びレール&カーシェア事業を開始 ・共通ポイントサービス「まるっとサービス」開始 ・身分証一体型icsca運用開始(東北工業大学学生証、富谷市高齢者・障がい者外出支援乗車証「とみぱす」)
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	2-(2)-③
事業名	お客様のニーズに対応したダイヤ等の設定(輸送課運行計画係)
大区分	質の高いサービス提供によるお客様満足度の向上
中区分	便利で利用しやすいサービスの提供
事業目的、必要性	利用実態に合わせ、運行便数や運行時刻の調整を行うとともに、ニーズの把握に努め、快適で利用しやすいサービスの提供を行う。
事業内容	トラフィックレコーダーのデータを分析し、利用状況に一定以上の乖離が見られる路線・系統は、ダイヤ改正において、便数や運行時刻の調整を行う。また、ニーズの把握に努め、そのニーズに基づいた系統変更や増便などのサービス向上策を採算性の観点から見極めながら実施していく。
目標	お客様の利用実態とニーズに基づいたサービスの実現を図る。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・始終発の延長 ・墓園線の休日運行開始 ・都市計画道路北四番丁大衡線開通に合わせた路線の見直し ・新市立病院の移転に合わせた一部路線の延長 ・東西線開業に合わせたバス路線再編
評価	ほぼ計画通り進んでいる(ほぼ成果が上がっている)
備考	

事業番号	2-(2)-④
事業名	公営バス事業の担うべき役割等に関する行政との検討(経営企画課企画係、輸送課運行計画係)
大区分	質の高いサービス提供によるお客様満足度の向上
中区分	便利で利用しやすいサービスの提供
事業目的、必要性	一般路線バスとしての維持が困難となる生活路線バス維持や運行のあり方、公営バスとして今後担うべき役割について行政とともに検討する。
事業内容	人口減少や少子高齢化の進展により、今後路線バスとしての維持が困難になることが想定される生活路線バスのあり方について、公営バス事業者の立場から行政とともに検討を行う。 併せて、市が策定する新たな都市交通プランの検討に参加し、都市内公共交通の運行のあり方等について行政とともに調査・研究を進める。
目標	市の新たな都市交通プランの策定に参画しながら、行政と連携して公営バス事業の担うべき役割についての検討を実施する。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな都市交通政策策定に向けた行政の検討委員会への参加 ・生活路線バスのあり方等に関する検討の実施
評価	計画に遅れが生じている(あまり成果が上がっていない)
備考	行政との検討について具体の成果まで至らなかったが、情報の整理・共有が一定程度図られた。

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	2-(2)-⑤
事業名	ホームページなどを活用した情報配信の充実(経営企画課営業推進係)
大区分	質の高いサービス提供によるお客様満足度の向上
中区分	便利で利用しやすいサービスの提供
事業目的、必要性	お客様がバスを利用しやすくなるよう、交通局ホームページを通じ、市営バスの運行や運賃などの情報を案内し、市営バスの利用者増とイメージアップを図る。
事業内容	交通局ホームページを通じ、市営バスの運行情報や運賃の案内に加え、各種イベントの開催など、様々な情報をお知らせする。また、「せんだい市バス・地下鉄ナビ」や「どこバス仙台」の運用も行う。
目標	コンテンツの内容充実により、バスの利用者増とイメージアップを図る。また、交通局ホームページ総アクセス数について、一日平均70,000回を目指す。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・交通局ホームページのリニューアル ・「せんだい市バス・地下鉄ナビ」、「どこバス仙台」のスマートフォン対応 ・ホームページ総アクセス95,251回/日(平成28年度)
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

事業番号	2-(2)-⑥
事業名	「どこバス仙台」のサービスのあり方の検討(輸送課管理係)
大区分	質の高いサービス提供によるお客様満足度の向上
中区分	便利で利用しやすいサービスの提供
事業目的、必要性	平成18年度から運用してきたバスロケーションシステム「どこバス仙台」について、運用から相当の年月が経過したこと、また、お客様の利便性をより向上させる必要性を踏まえ、将来のシステム更新に向けた検討を行う。
事業内容	既存システムにおいて、新たな携帯端末(スマートフォン)やブラウザに対応するとともに、将来のシステム更新に向けた検討を進める。更新に向けた検討にあたっては、これまでに寄せられたお客様の声や他事業者における運用状況等を調査するなど、より利便性が向上するようなサービスのあり方についても合わせて検討を進める。
目標	「どこバス仙台」のサービスのあり方について検討し、方針を定める。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年4月 システム更新(クラウド方式採用による費用の低減、セキュリティ強化)スマートフォンへの対応実施 ・平成28年10月 東西線結節駅(八木山動物公園・薬師堂・荒井)において、バス乗り継ぎ客向けの接近情報を表示するLCDサービスを開始
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	3-(1)-③
事業名	広告料収入の確保(経営企画課営業推進係)
大区分	経営基盤の強化に向けた積極的な施策展開
中区分	増客・増収に向けた取り組み
事業目的、必要性	年々の減少傾向に加え、震災の影響により大幅な減収となっている広告料収入について、今後、様々な策を講じ、増収を図っていく必要がある。
事業内容	他事業者の情報収集などを行い、既存広告媒体の活性化や新規媒体の開発に取り組むほか、既存の広告媒体について、販売方法を工夫するなど、掲出率の向上を目指す。
目標	平成28年度までに、平成22年度比で8%の増収を目指す。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・「大型戸袋ステッカー」「長町営業所広告」等新規媒体の開発 ・「ボディ広告バス人気投票」「販売キャンペーン」等の実施 ・平成22年度比6%の増収
評価	計画に遅れが生じている(あまり成果が上がっていない)
備考	計画目標値には達しなかったが、対平成22年度比では増収となった。

事業番号	3-(1)-④
事業名	市営バスのイメージアップ(経営企画課営業推進係)
大区分	経営基盤の強化に向けた積極的な施策展開
中区分	増客・増収に向けた取り組み
事業目的、必要性	オリジナルグッズの作成・販売などにより、市営バスのイメージアップを図るとともに、大規模集客イベントとのタイアップを行うなど、市営バスの利用を促進することにより、増客・増収を図る。
事業内容	オリジナルグッズの作成・販売や営業所等の施設を見学する「バス・地下鉄親子探検ツアー」を開催する。また、在仙プロスポーツチームや大規模イベントとのタイアップにより、市営バスのイメージの向上や、市営バスの利用促進に努める。
目標	各事業を着実に実施することにより、局事業のイメージ向上と収入源の確保を図る。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルグッズ「走る！バストラップ」、「仙台市営バス トミカ」、「オリジナルサウンドバス」の作成、販売 ・「バス・地下鉄親子探検ツアー」の開催 ・宮城バスまつりへの参加 ・在仙プロスポーツ団体、地元放送局、地域イベント等とのタイアップ事業の実施
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	3-(1)-⑥
事業名	バス事業資産の有効活用(業務課庶務係)
大区分	経営基盤の強化に向けた積極的な施策展開
中区分	増客・増収に向けた取り組み
事業目的、必要性	震災の影響により乗車料収入が大幅に落ち込み、経営状況が悪化している状況を踏まえ、バス事業資産の新たな有効活用を検討し、付帯収入の確保に向け取り組む。
事業内容	バス待合所や旭ヶ丘バスターミナルなどにおける通信事業者の機器設置にかかる使用料収入の確保など、バス事業資産の新たな有効活用策について検討を行う。
目標	岡田出張所跡地や新寺駐車場などについて、有償による所管替えや貸付を行うなど、資産有効活用について可能なものから随時実施する。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台駅西口バスプール案内所への通信事業者の機器設置にかかる使用料収入の確保 ・岡田出張所跡地を現場事務所用地等として建設会社に有償貸付 ・新寺駐車場の一部をバス駐車場用地として民間バス事業者の有償貸付
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

事業番号	3-(2)-①
事業名	利用状況に応じた適切なサービス供給量への見直しの検討(輸送課運行計画係)
大区分	経営基盤の強化に向けた積極的な施策展開
中区分	経費削減に向けた取り組み
事業目的、必要性	地下鉄東西線の開業後、更に厳しい経営状況になることが見込まれる市営バス事業において、事業の効率性や採算性の向上に向けた取り組みを進め、地域の足市民の足として維持していくこと。
事業内容	全域・全路線の利用状況などを分析しながら、採算性を踏まえた運行経路の設定や運行本数の見直しについて検討を行う。
目標	東西線開業後のバス利用状況の把握、分析を行うとともに、採算性の高いバス路線とすべく、需要に応じた適切な運行ダイヤへの見直しを検討する。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・市営バス事業の現況及びダイヤの利用状況の分析 ・運行サービスの見直しが必要な系統の抽出
評価	ほぼ計画通り進んでいる(ほぼ成果が上がっている)
備考	

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	3-(2)-②
事業名	管理の委託の今後の実施方針の検討(輸送課管理係)
大区分	経営基盤の強化に向けた積極的な施策展開
中区分	経費削減に向けた取り組み
事業目的、必要性	バス運転業務等の管理の委託について、平成26年度には目標としてきた事業量の2分の1程度の規模の委託を達成したことから、更なる収支改善に資する管理の委託のあり方を検討する。
事業内容	当面は現在の委託規模を維持しながら、将来の委託規模など、収支改善に向けた管理の委託のあり方について、検討する。
目標	収支改善に資する今後の管理の委託のあり方について、検討を実施する。
計画期間中の事業実績(実績値)	・今後の管理の委託の在り方を検するため、バス事業者への聞き取り調査(4社)及び他都市の状況の調査を実施
評価	計画に遅れが生じている(あまり成果が上がっていない)
備考	各種調査により情報の収集は図られたが、今後の管理の委託のあり方の検討を実施するには至らなかった。

事業番号	3-(2)-③
事業名	管理の委託契約の見直し(輸送課管理係)
大区分	経営基盤の強化に向けた積極的な施策展開
中区分	経費削減に向けた取り組み
事業目的、必要性	震災の影響により悪化した経営状況を改善するため、経費の大きな部分を占めるバス運転業務等の管理の委託にかかる委託料について、更なる経費の削減を図る。
事業内容	今後、更新時期を迎える管理の委託契約について、更新に合わせて、バス車両清掃業務の内容を見直すなど、更なる経費の削減を図る。
目標	局直営業務の見直しと合わせた委託業務内容の見直しにより、委託料の削減を図る。
計画期間中の事業実績(実績値)	・委託仕様内容における車両清掃作業の回数を直営で実施している回数に合わせ清掃回数を削減。 車両水拭きの回数 平成26年度まで:1日置きに1回(通年) 平成27年度以降:2日置きに1回(4月~9月)、1日置きに1回(10月~3月)
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	3-(2)-④
事業名	バス車両修繕業務等の見直し(整備課管理係)
大区分	経営基盤の強化に向けた積極的な施策展開
中区分	経費削減に向けた取り組み
事業目的、必要性	震災の影響により悪化した経営状況を改善するため、バス車両修繕業務等を見直し、経費を削減する。
事業内容	バス車両修繕業務について、車両状態調査や故障履歴の分析等を実施することにより、車検や一般整備で必要となる各種部品等の交換周期などを見直す。また、バス車両の清掃業務委託について、他都市の事例を調査・比較しながら、これまでの委託契約内容を見直すなど、経費の削減を図る。
目標	修繕にかかる部品等の交換周期等を見直しを行うことにより、また、車両清掃業務にかかる委託契約内容を見直すことにより、経費の削減を図る。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・修繕にかかる部品の交換周期等の見直しの実施 ・日常清掃の実施回数を見直しと実施 ・見直した交換周期等による修繕等の実施及び実施結果の検証
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

事業番号	3-(2)-⑤
事業名	バス車両にかかる投資額抑制に向けた検討(整備課管理係)
大区分	経営基盤の強化に向けた積極的な施策展開
中区分	経費削減に向けた取り組み
事業目的、必要性	震災の影響により悪化した経営状況を踏まえ、今後ますます増加するバス車両の更新について、更新車両の一部に中古バス車両を導入するなど、車両にかかる投資額を抑制する。
事業内容	これまで最長使用年数を20年としてきたバス車両について、今後、更新時期を迎える車両が増加する。投資額の抑制を図りながら、車両を確保するという観点から、中古バス車両を導入する。また、保有車両全般にわたる調査を実施することで、より詳細な車両状態を把握し、その状態に応じて適宜使用年数を延長するとともに、大規模な車両修繕の実施についても検討を行う。
目標	平成24年度以降、中古バス車両を本格導入し、各年度3両以上の導入を目指す。また、車両状態調査の結果を踏まえ、その状態に応じた適切な車両使用年数の延長を行う。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・中古バス車両の導入19両(H24:3両、H25:5両、H26:9両、H27:2両) ・車両状態調査に基づく、車両の使用年数の延長
評価	ほぼ計画通り進んでいる(ほぼ成果が上がっている)
備考	

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	3-(2)-⑥
事業名	乗務員の労働条件の見直し(総務課労務係)
大区分	経営基盤の強化に向けた積極的な施策展開
中区分	経費削減に向けた取り組み
事業目的、必要性	乗務員の労働条件を見直し、費用のうち最も大きな部分を占める人件費の削減を図る。
事業内容	市営バス事業は、費用の半分以上を人件費が占める典型的な労働集約型の事業であるため、安全な運行を維持しつつ、労働条件を見直し、乗務員一人あたりの労働生産性を引き上げるなど、人件費の削減を図る。
目標	ダイヤ編成の柔軟性を向上させ、営業路線にかかる経費の低減を図る。
計画期間中の事業実績(実績値)	給与制度の見直しの実施により人件費を抑制したほか、乗務員一人あたりの労働生産性を高めるため、業務内容の精査や労働時間の管理方法の整理などを検討し、労働条件の見直しに向けた諸課題の整理を進めた。
評価	ほぼ計画通り進んでいる(ほぼ成果が上がっている)
備考	

事業番号	3-(2)-⑦
事業名	貸切バス事業のあり方についての検討(輸送課運行計画係)
大区分	経営基盤の強化に向けた積極的な施策展開
中区分	経費削減に向けた取り組み
事業目的、必要性	平成27年4月からの運賃体系変更により、今後の本市の貸切バス事業のあり方について、検討が必要となっている。
事業内容	貸切バスに関する国の運賃・料金制度の見直しを受けて、今後の本市の貸切バスの担うべき役割、需要及び収支状況を見極めた上で、貸切バス事業のあり方について検討を実施する。
目標	運賃体系変更後の需要と収支状況の変化等を分析し、貸切バス事業のあり方について検討を実施する。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・貸切バス事業に係わる運行経費の整理(平成27年4月) ・料金改定後の需要の変化等を整理 ・平成29年度の貸切バス事業の事業規模の見直し
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	3-(2)-⑧
事業名	庁舎における電気・ガス・水道使用量の節減（財務課契約管財係、業務課庶務係） 本庁舎分
大区分	経営基盤の強化に向けた積極的な施策展開
中区分	経費削減に向けた取り組み
事業目的、必要性	交通局庁舎・営業所・出張所において使用する電気・ガス・水道使用量を節減し、経費の削減と環境負荷の低減を図る。
事業内容	冷暖房機器の適正な運転管理の徹底、省エネタイプの照明灯への交換などを行い、電気・ガス使用量を節減するとともに、洗車基準等の見直しによる水道使用量の節減を図る。また、平成23年度に実施した夏季の節電の取り組みにより、電気・ガスの使用量を削減した実績を踏まえ、24年度以降も可能な節電対策等を引き続き継続する。
目標	節電に向けた取り組みにより、電気使用量については各年度10.0%の減(22年度比)、ガス使用量については各年度3.0%の減(22年度比)を目指す。また、水道使用量については、平成28年度までに2.0%の減(22年度比)を目指す。
計画期間中の事業実績(実績値)	・平成22年度比で 電気使用量 21.0%の減 ガス使用量 17.6%の減 水道使用量 16.8%の減
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

事業番号	3-(2)-⑧
事業名	庁舎における電気・ガス・水道使用量の節減（財務課契約管財係、業務課庶務係） 営業所・出張所分
大区分	経営基盤の強化に向けた積極的な施策展開
中区分	経費削減に向けた取り組み
事業目的、必要性	交通局庁舎・営業所・出張所において使用する電気・ガス・水道使用量を節減し、経費の削減と環境負荷の低減を図る。
事業内容	冷暖房機器の適正な運転管理の徹底、省エネタイプの照明灯への交換などを行い、電気・ガス使用量を節減するとともに、洗車基準等の見直しによる水道使用量の節減を図る。また、平成23年度に実施した夏季の節電の取り組みにより、電気・ガスの使用量を削減した実績を踏まえ、24年度以降も可能な節電対策等を引き続き継続する。
目標	節電に向けた取り組みにより、電気使用量については各年度10.0%の減(22年度比)、ガス使用量については各年度3.0%の減(22年度比)を目指す。また、水道使用量については、28年度までに2.0%の減(22年度比)を目指す。
計画期間中の事業実績(実績値)	平成22年度比で 電気使用量 15.2%の減 ガス使用量 30.6%の減 水道使用量 0.3%の減
評価	ほぼ計画通り進んでいる(ほぼ成果が上がっている)
備考	

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	3-(3)-①
事業名	次世代の職員の育成と技術の確実な継承(業務課指導係、総務課人事係)
大区分	経営基盤の強化に向けた積極的な施策展開
中区分	組織の活性化に向けた取り組み
事業目的、必要性	バス事業の安定的な維持の観点から次代を担う職員の確保に努めるとともに、職員の資質向上を図る。
事業内容	安定的に乗務員を確保するために、正職乗務員の採用を再開する。また、各種研修内容の拡充により、乗務員の資質の向上に努める。
目標	正職乗務員の採用再開と乗務員の質の向上を図る
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・嘱託職員からの正職員採用選考を実施 ・バス運転手教習生採用の導入 ・入所1年目の乗務員に対するフォローアップ研修を実施
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

事業番号	3-(3)-②
事業名	業務への意欲を高める取り組み(総務課総務係、業務課指導係)
大区分	経営基盤の強化に向けた積極的な施策展開
中区分	組織の活性化に向けた取り組み
事業目的、必要性	職員の業務に対する意欲を高め組織を活性化させることにより、業務効率の向上及び利用者に対するサービスの向上等を図る。
事業内容	業務改善意見提案制度の活用により、職員からの意見を事業運営に反映させていくとともに、接客サービスなどで優秀な成績を収めた職員を表彰するなど、職員一人ひとりの業務への意欲を高める取り組みを行う。
目標	業務の効率化や利用者サービスの向上を図る。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善意見提案の実施及び審査方法の見直し ・提案のうち優秀賞等の表彰及びプレゼンテーション ・年間接遇優秀者管理者表彰 ・職員市バスモニター自動車部表彰 ・業務改善プロジェクト活動の創設及び検討 ・「職員の声」の創設
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	3-(3)-③
事業名	良好なコミュニケーションの確保(業務課指導係)
大区分	経営基盤の強化に向けた積極的な施策展開
中区分	組織の活性化に向けた取り組み
事業目的、必要性	経営のトップから乗務員一人ひとりに至るまで、安全意識に対する認識を高めるためには、良好なコミュニケーションの場が必要である。管理部門と乗務員との意見交換会を実施し、安全に関する心構え・実践事項・意見・提案などを聞くとともにコメントすることにより意識の高揚を図る。
事業内容	乗務員などの現場職員と管理部門の職員との意見交換会の場や、乗務員同士の議論の場を定期的に設けるなど、安全確保や健康管理等について、日頃から情報交換がしやすい職場環境をつくり、良好なコミュニケーションを確保する。また、悩み相談などへの対応も強化し、職員が心身ともに充実した状態で働けるような環境づくりを進める。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事業管理者・安全統括管理者と乗務員の意見交換会 年2回 ・自動車部各課と乗務員との意見交換会 年2回 ・営業所長・主幹と乗務員との意見交換会(職場研修会) 月1回
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業管理者・安全統括管理者と乗務員の意見交換会(H23:年1回、H24~H26:年2回、H27:年4回、H28:年3回) ・自動車部各課と乗務員との意見交換会(H23:年1回、H24~H26:年2回、H27:年3回、H28:年3回) ・営業所長・主幹と乗務員との意見交換会(職場研修会)(H23~H28:月1回) ・安全統括管理者と一ぶる仙台乗務員との意見交換会 年1回
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	

事業番号	4-①
事業名	災害に強い通信手段の確保(業務課庶務係)
大区分	市営バスとしての災害対応力の強化
中区分	—
事業目的、必要性	災害時に多くの通信手段が使用できなくなる事態を想定し、直接通信可能な災害に強い通信手段を確保することにより、災害対応力の強化を図る。
事業内容	本局・営業所・出張所間で直接通信可能な業務用無線局を開設。
目標	平成24年度に本局・営業所・出張所間で直接通信可能な業務用無線局を開設し、25年度以降に連絡車及びバス車両への増設を検討する。
計画期間中の事業実績(実績値)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度に本局・営業所・出張所に業務用無線機を導入 ・平成27年度に連絡車用の業務用無線機を購入(平成28年度に配備)
評価	ほぼ計画通り進んでいる(ほぼ成果が上がっている)
備考	

仙台市自動車運送事業経営改善計画【改訂版】・個別計画実績及び評価

事業番号	4-②
事業名	災害訓練の実施(業務課指導係)
大区分	市営バスとしての災害対応力の強化
中区分	—
事業目的、必要性	バス車両の集団災害対応訓練に合わせ、情報収集伝達訓練、救護訓練等を実施することにより、関係職員の行動を確認し、検証することにより、今後の事故対応体制の強化及び行動基準の見直しに資することを目的に行う。
事業内容	今後、大規模な災害が発生した際、交通事業者としてより適切な対応が取れるよう、独自災害対応訓練や、消防等と協力しながら行う集団災害対応訓練を定期的実施する。
目標	平成27年度に、集団災害対応訓練を各関係機関と協議し実施する。また、随時、独自災害対応訓練(非常用発電機稼働訓練等)を実施する。
計画期間中の事業実績(実績値)	業務用無線機を活用した本局と営業所・委託事業所との連絡体制訓練 平成23年度 宮城県警と連携し北山トンネル内で実施 平成24年度 若林消防署と連携し霞の目営業所内で実施 平成25年度 (公社)宮城県バス協会主催のバスジャック対応訓練に参加 平成26年度 局内においてバスジャックを想定した対応訓練の実施 平成27年度 若林消防署と連携し霞の目営業所内で実施 平成28年度 局内においてバスジャックを想定した対応訓練の実施
評価	計画通り進んでいる(成果が上がっている)
備考	